綾瀬発・釜石応援プロジェクト６

本会では、東日本大震災の被災地である岩手県釜石市を応援するため、平成２３年度２回の「ボランティアバスパック」を実施。平成２４年度「綾瀬発・釜石応援プロジェクト」を立ち上げ、平成２８年度までに１４回の支援を実施、今年度は２回の支援活動を実施してまいりました。

このプロジェクトは、社協の持つネットワークを生かし、賛同いただける市内の団体にお集まりいただき、企画から実施までを一緒に行うものです。

また、市内の事業所の皆様にも御協力をいただき、食材等の御提供をいただきました。

今年度の活動は現地の方々との交流を通して「私たちはあなた方のことを忘れていません」というメッセージを送り続けていくために、５回目となる天神町仮設団地における「第５回釜石＆綾瀬夏の交流祭り」と鵜住居復興公営住宅二号棟における住民自治を構成するためのイベントを釜石市社協と共同で実施し、多くの皆様にクリームうどんをめしあがっていただきました。

プロジェクトメンバー（順不同・敬称略）

綾瀬青年会議所　綾瀬アカデミー　綾瀬市商工会青年部　ブタッコリ～推進委員会
あやせ災害ボランティアネットワーク　市民活動センターあやせ
（株）タウンニュース社綾瀬編集室

食材等提供（順不同・敬称略）

（第１期協力）
秋本食品（株）　エムケーチーズ（株）　綾瀬高座スイカ研究会　（株）ラテン大和
ファイアート神奈川（有）青柳商店

協力・協賛機関（順不同・敬称略）

釜石市天神町仮設団地自治会・釜石市天神町仮設団地商店街・釜石市社会福祉協議会

第１期　平成２９年７月２１日（金）～２３日（日）　参加者２４名

第５回釜石＆綾瀬夏の交流祭り＆釜石の産業にふれる

午前中は、箱崎漁港に来てお話しをうかがいました。

お話をしてくださっているのは、NPO 法人おはこざき市民会議の下川さんと東部漁業組合の高さん

今回、この場を設定させていただいたのは、震災後の生活や仕事などが現在どのようになっているのかを直接聞きたい。特に若い方のお話を聞きたいという思いでした。

お二人の自己紹介の後は車座で、ざっくばらんに漁師の仕事や漁業組合のこと、そして震災前と後での生活のことなどいろいろなことを聞くことが出来ました。

午後からあいにくの雨に見舞われ、会場を急遽復興公営住宅に移しての開催となりました。

オープニングはいつもの「いがったんたら」の皆さんによるウェルカムダンス。５年前から見ていますが、子供達の成長を感じるひと時です。

そして、参加したボランティア全員で、バーベキュー、焼きそば、綿菓子、ポップコーン、水風船などを分担し、釜石の皆さんをおもてなししました。

ご寄付いただいた、チーズにお菓子、ソーセージ、高座スイカも皆さんに大変喜ばれましたが、雨が止まず花火を行うことが出来なかったことが非常に残念でした。

今回５回目となり、最初は仮設団地を支援することから並行して公営住宅における新たな交流機会の創設へと事業も変化する中、新たな課題も見えてきました。

第２期　平成２９年２月１６日（金）～３０日（日）　参加者１６名

鵜住居復興公営住宅住民交流会＆市民ホール・釜石大観音見学

今回の活動は、鵜住居復興公営住宅での住民交流会

この住宅に居住している方々は、引っ越しをして間もない方々で、この交流会で顔見知りになってもらうことを目的に釜石市社協と協働で開催したものです。

釜石で生まれたクリームシチューうどんは皆さんに大好評でした。またキャラメルポップコーンや綿菓子の甘い匂いに誘われて、子供たちも参加してくれました。

イベント開始前は、駐車場に溜まった厚さ５センチを越える氷を砕き、通り道を作る作業を住民の皆さんと一緒に行いました。女性の参加者もバールを持ち、氷を砕き、砕いた氷をスコップですくって端に寄せました。時折雪が強くなる不安定な天気の中でしたが、良い汗をかくことができました。

そして終わってからは新しく完成した市民ホールを見学し、岩手県の文化に触れ、その後釜石大観音へ移動し、観音様の胎内めぐりを行いました。

震災後に見たあの街から、見違えるような変貌を遂げる釜石の街に、力強さと復興を実感できていることの幸せを感じる一日となりました。

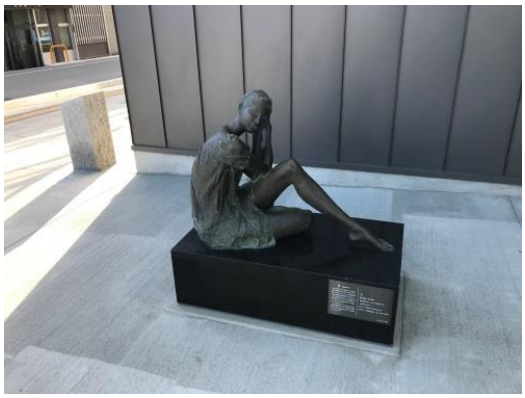
東日本大震災から７年が経ちました。

綾瀬市社協では、震災直後に行ったボランティアバスパックを含め、今年度で１８回の釜石訪問を行い、スタッフを含め延べ５５０名の方々に参加いただき、様々な支援活動を行ってきました。

今回冬に訪れた鵜住居地区は、最初に訪れたボランティアバスパックの活動で、がれきを捨てに行ったところでした。がれきの集積所の隣にあった鵜住居小学校では、津波の爪跡が残り、校舎に乗用車が刺さったままだったことを思い出します。その後のプロジェクトでも度々この地区を訪れました。多くの死者を出した鵜住居防災庁舎には何度も足を運びましたが、そこでは天井まで到達した津波の跡に驚愕し、失われた多くの命に手を合わした所でした。またその隣の JR 山田線の鵜住居駅にも何度か立ちました。震災直後は線路が飴のようにねじ曲がり、もはや復旧などできないものと思っていましたが、今では同じ場所に駅舎が出来、線路もまっすぐ伸びて、来年度の開通を待つばかりとなっていました。

鵜住居幼稚園、小学校、中学校は高台に建設され、そこからラグビーワールドカップの会場の建設工事が急ピッチで進んでいる様子を見ることができました。しかし、その一方で公営住宅の建設が進んでいるものの、道路整備が追いつかず、結果的に入居できていない現状もありました。

さらに活動終了後に行った市民ホールは、とても立派なものでした。その建物の前にあったモニュメントに見覚えが有り、プレートを見たところ、以前津波で壊滅した文化会館の前にあったものでした。奇跡的に残ったものがこのように息を吹き返す光景に、確実に前に進んできた釜石の歩みを見たような気がしました。



私たちはここまで、本当に小さなことでしたが、釜石を応援し、たくさんのありがとうをもらってきました。

そろそろ終焉に向かって進むとき・・・その時まで精一杯頑張っていきたいと思います。

がんばろう釜石！！

綾瀬市社会福祉協議会